



生活協同組合コープこうべ
組合長理事

本田 英一

組合長理事あいさつ

コープこうべでは、組合員の皆さんとともに環境問題に長年取り組んでまいりました。テーマは時代時代で変化してきましたが、最近では地球温暖化に伴う異常気象、原発事故後のエネルギー問題、そして食や生物多様性の問題など次世代のくらしを脅かす事象が顕在化してきています。組合員とともに持続可能な社会を目指す生協として、次世代につなげる取り組みを進めていく必要があります。

本誌では、このような思いで2014年度に取り組んだ再生可能エネルギーの拡大や新たな電力事業への準備、リサイクルの新たな取り組みについて概要をご報告しています。組合員の皆さんと現在の到達点を共有し、様々なご意見やご提案もいただきながら、共に未来につなげていきたいと考えています。

2015年7月

コープこうべ概要(2015年3月31日現在)

名 称	生活協同組合コープこうべ
設 立	1921年(大正10年)
所在地	〒658-8555 神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号
出資金	391,5億円
組合員数	1,677,858人
組織率	50,4% (活動エリア内世帯に占める組合員世帯の割合)
活動エリア	兵庫県全域・京都府京丹後市・ 大阪府の北摂地域
主な事業	組合員世帯を対象に、商品の生産・供給事業 および教育・学習を行い、生活文化の向上を図る事業など
供給高	2,348,2億円
生産事業高	89,5億円
総職員数	9,651人
事業所	住吉事務所／1カ所 地区本部／7カ所 店舗事業／163店舗 宅配事業／25事業所 食品工場／1カ所 物流センター／8センター その他／38事業所

コープこうべ環境憲章

有史以来、私たちは自然界の恩恵を受け、自然との共生を図りながら生きてきました。しかしながら、今や私たち人間が環境に与える影響は極度に増大し、地球環境を大きく破壊しつつあります。これは人類の生存をも脅かす重大な問題です。

この地球は私たちが先祖から受け継いだものであると同時に、子孫から託されているかけがえのないものです。地球環境を守るためには、私たち一人ひとりが生活スタイルを見直すとともに、事業のあり方を変革し、行政・企業・消費者が力を合わせて環境保全型社会への転換を図っていくしかありません。

コープこうべは、くらしを守るという生活協同組合の目的にそって、環境問題解決のため全力を尽くすことを誓い、「コープこうべ環境憲章」を以下のとおり定めます。

基本理念

地球環境はすべての面で有限であり、私たち人間は其中で活動せざるをえません。コープこうべの組合員・職員の一人ひとりはそのことを認識し、限られた地球環境の中で自然と共生していくという思いを大切に持ち続けていきます。

創立以来、コープこうべは組合員のくらしを守るための運動を展開してきました。今後さらに、環境問題を"くらしのあり方、社会システムのあり方を問う意識変革の問題"と認識し、"健康・福祉・平和"を守る運動とともに、生協運動の根源的課題として、事業活動も含めて先進的な取り組みを積極的に展開していきます。

行動指針

生協は、消費者運動としての側面と同時に事業体としての側面をもっており、その両面で環境保全への取り組みを推進していきます。コープこうべは以下の方針を基本として、組合員と職員が一緒になって考え、悩み、創造し、行動するとともに、環境保全活動や環境負荷に関する情報を公開していきます。

1. くらしの見直し運動をすすめ、
環境保全型社会への転換を推進します。
2. 事業活動から発生する直接・間接の環境負荷の
低減を推進します。

- ①環境に配慮した事業体への転換を図ります。
- ②環境に配慮した商品の開発・改善を図ります。

2014年の取り組み

2014 TOPICS

再生可能エネルギー普及への貢献

石油・石炭などの化石燃料は限りがあるエネルギー資源です。これに対し、太陽光や風力、水力、バイオマス、地熱などのエネルギー源は、一度利用しても比較的短期間に再生産が可能で資源が枯渇しない「再生可能エネルギー(以下、再エネ)」です。これらは発電時にCO₂を排出せず、化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして期待されています。

2014年度コープこうべでは、再エネの普及に積極的に取り組みました。さらに、シンポジウムの開催や家庭での省エネ活動にも力を入れて取り組みました。

●太陽光発電所を拡大

コープこうべグループでは、再エネの普及を目的に、兵庫県と大阪府に太陽光パネルを設置し、太陽光発電を推進してきました。2014年度は新たに2カ所に太陽光パネルを設置しました。2015年3月末現在、合計7カ所で太陽光発電を実施しており、2014年度の年間発電量は約375万kWhで、これは一般家庭の年間電力消費量換算で約1,041軒分に相当します。現在、新たな太陽光パネルの設置を進めており、引き続き太陽光を利用した発電に取り組めます。

●太陽光で発電した電力をコープの店舗の電気として利用する電力供給事業を開始

コープこうべグループが発電した太陽光電力を、お店など42カ所の事業所の電気として利用する新たな取り組みを2015年度より開始しています。再エネ電力を発電だけでなく自ら利用する取り組みを通じて、再エネの普及に貢献していきます。

●自然エネルギーで豊かな日本を創ろう！ アクション(神戸シンポジウム)を開催しました。

2014年12月に自然エネルギーの普及を求める市民の声を広く社会にアピールする目的で、日本生活協同組合連合会や自然エネルギーの普及を進める諸団体と共に「自然エネルギーで豊かな日本を創ろう!アクション」を立ち上げました。このアクションでは、自然エネルギーの拡大を望む市民・消費者の声を全国各地から発信するため全国でシンポジウムを開催しました。3月30日(月)にコープこうべ生活文化センターで開催した神戸会場のシンポジウムには、110名が参加し自然エネルギーの未来について考えました。

●家庭での省エネ

2014年度も家庭の省エネをテーマに、環境省が推奨する「うちエコ診断」を学習プログラムとして取り組みました。「組合員まつり」などのイベントブースで、気軽に参加できる簡易診断を行うなど7カ所で実施しました。このほかに、講義型で学ぶ「プチエコ学習会」を、7つのコープ委員会で開催し、132名が参加しました。

また、2013年度に引き続き日本生活協同組合連合会と連携し、エネルギーの見える化機器の一つである『HEMS』(Home Energy Management System)を取り付け、省エネに関する意識の変化や省エネ効果を検証するモニター事業を行いました。HEMSデータを利用した「うちエコ診断」を実施するなど、具体的な省エネ活動に取り組みました。

稼働中の発電所数

7発電所

一般家庭1,041軒分の年間電力消費量に相当



上：コープこうべ鳴尾浜配送センター
屋上の太陽光パネル



右：太陽光で発電した
電気がお店の照明に
使われています。



自然エネルギー財団の大野輝之さんの講演



組合員まつりでの
「うちエコ診断」の様子